

水稻育苗箱処理剤播種同時処理技術

長期残効型の水稲育苗箱処理剤は、その省力性と効果の安定性が評価され、普及率は年々増加している。しかしながら、最も多忙な田植時期に育苗箱に薬剤を処理することは水稲農家にとっては負担の大きい作業である。そこで、箱処理剤の省力的な処理方法のひとつとして普及しているのが播種同時処理である。播種同時処理のメリットは、多忙な田植えの時期に箱処理剤を散布する手間がかからないことと、均一な散布ができることである。特にいもち病防除においては、散布ムラがあるといもち病の発生源となるため均一な散布が不可欠であるが、播種時処理であればそれが可能となる。また、剤によっては、育苗中の病害防除の効果が期待できるものもある。

◆播種同時処理のできる剤

播種同時処理は稲がもっとも敏感な時期に処理するため根張りが悪くなるなどの薬害が発生しやすく、使用できる剤は限られていたが、最近では製剤の工夫などにより播種同時処理の登録をもつ剤が増えてきた。

表ー1 播種同時処理可能なおもな殺虫・殺菌成分

	成分名	商品名	特徴など
殺虫剤	フィプロニル	プリンス	初期害虫やイナゴに高い効果がある。
	ジノテフラン	スタークル	甲虫目、ウンカ・ヨコバイに効果がある。
	イミダクロプリド	アドマイヤーCR	製剤の工夫により播種同時処理を可能にした。
	クロチアニジン	ダントツ 08、ワンリード	含量を減量することにより播種同時処理を可能にした。
	クロラントラニリプロール (リナキシピル)	フェルテラ	チョウ目および甲虫目の害虫に効果の高い殺虫剤で、残効性も長い。
	シアントラニリプロール (サイアジピル)	パディートなど	チョウ目および甲虫目の害虫に効果の高い新規の殺虫剤で、残効性も長い。
殺菌剤	オリサストロビン	嵐	いもち病、紋枯病の両方に効果があり、播種同時処理により育苗期間中の苗いもち病防除が期待できる。
	イソチアニル	ルーチン・スタウト・ツインターボ	いもち病に安定した効果があり、残効が長い。
	プロベナゾール	ファーストオリゼ	播種同時専用のいもち剤（通常の箱処理剤と製剤が異なる）。
	チアジニル	アプライ	播種同時専用のいもち剤（通常の箱処理剤と製剤が異なる）。
	ペンフルフェン	エバーゴル	紋枯病に効果がある新規成分。

表-2 播種時処理ができる主な長期残効型の箱処理剤

(平成 27 年 3 月現在)

殺虫剤	プリンス粒剤
	プリンススピノ粒剤6
	アドマイヤーCR箱粒剤
	スタークル箱粒剤
	ワンリード箱粒剤08
	ワンリード SP 箱粒剤
	フェルテラ箱粒剤
殺菌剤	ファーストオリゼ箱粒剤
	ルーチン粒剤
殺虫殺菌混合剤	嵐プリンス箱粒剤6・10
	嵐プリンススピノ箱粒剤6
	嵐スタークル箱粒剤
	ルーチンアドスピノ箱粒剤
	ルーチンアドマイヤー箱粒剤
	ルーチンバリアード箱粒剤
	ルーチントレス箱粒剤
	ルーチンクアトロ箱粒剤
	ツインターボフェルテラ箱粒剤
	ツインターボ箱粒剤08
	スタウトダントツ箱粒剤、08
	エバーゴルフォルテ箱粒剤
	エバーゴルワイド箱粒剤
	アプライプリンス粒剤6・10
	アプライスタークル粒剤
	アプライフェルテラ粒剤
	ファーストオリゼフェルテラ箱粒剤
	ファーストオリゼプリンス粒剤6・10

◆播種同時処理をする場合の注意点

播種同時処理をする場合には、剤によって処理できる時期が異なるので、まず適用内容をラベル等で確認する。播種時覆土前に処理するもの、床土混和できるものなどがある。

また、薬剤を処理した苗をハウス等で育苗する場合、散布した農薬が育苗時の土壌にしみこまないように注意する必要がある。特に、水稻育苗後のハウスで他の作物を栽培する場合には、後から栽培した作物に影響することがあるので、育苗箱の下に不浸透性のビニールシートを敷くなどの対策を講じる。

◆低コストな大型規格

これら播種同時処理は、JAの育苗センターや大規模農家などで利用されることが多い。そこで、播種同時処理剤では、通常の1kg規格よりも大型の10kg規格包装が販売されているものがある。これらはスケールメリットで低コストとなっており、生産資材のコスト低減に寄与している。



播種同時処理装置